

出版デジタル機構概要

――すべての出版物のデジタル化を目指して――

【設立の趣意】

インプレスホールディングス・勁草書房・講談社・光文社・集英社・小学館・新潮社・筑摩書房・東京大学出版会・東京電機大学出版局・版元ドットコム（代表：ポット出版・ほか6社）・文藝春秋・平凡社・有斐閣の出版社20社（五十音順）は、出版社が主体となって作る新会社「株式会社出版デジタル機構」の設立を目指し、検討を行なって参りました。出版デジタル機構は、電子出版ビジネスの市場拡大をサポートするための公共的なインフラとなります。私たちは、出版物のデジタル化の支援に努めます。出版物のデジタルデータの保管＝ストレージを行います。さらに各電子書店・電子取次への配信業務サポート、図書館に対する窓口機能等の業務も進めて参ります。これらのインフラを整えながら、読者にとってより良い読書環境を育んでまいります。

同機構設立は、総務省・経済産業省・文部科学省を軸としたいいわゆる三省デジタル懇談会等において、一昨年から議論されていた課題に対する一つの回答でもあります。

それらの課題は『出版物へのアクセスの確保』、『図書館と出版社のあり方』そして『出版物の権利処理の円滑化』などです。市場を拡大する上で横たわるこのような課題を解決しながら、出版の未来を形づくっていくことが同機構の役割です。

設立の目的は、■国内における電子出版ビジネスの公共的なインフラを整備することで、市場拡大を図る ■日本の電子出版物の国際競争力を強化する ■研究・教育・教養分野における電子出版物利用環境を整備する ■国内で出版されたあらゆる出版物の検索を可能にする ■電子出版・電子書店などへの新規参入を容易にし、誰でもが電子出版による言論表現活動に参加できるようにすることです。

我々の心からの試みが広く受け入れられ、恒常的な活動を粛々と進めていくために、出版社260社以上の賛同と共感をいただきました。よってここに出版デジタル機構の設立を発起する次第です。

【概要】

- ・ 商号：株式会社出版デジタル機構（サービス名称：パブリッジ）
- ・ 所在地：東京都千代田区神田神保町1-3 富山房ビル 3階
- ・ 代表取締役：植村 八潮
- ・ 取締役：野間 省伸（講談社代表取締役社長）、堀内 丸恵（集英社代表取締役社長）、相賀 昌宏（小学館代表取締役社長）
- ・ 監査役：菊池 明郎（筑摩書房代表取締役会長）
- ・ 設立予定日：2012年4月2日
- ・ 株主（今後の出資予定の会社等も含む）：角川書店、勁草書房、講談社、光文社、集英社、小学館、新潮社、筑摩書房、版元ドットコム、文藝春秋、平凡社、有斐閣
産業革新機構、大日本印刷、凸版印刷

【出版デジタル機構の目指す姿】

- ・ 電子出版物100万点を達成し、電子出版物の普及を促進する
- ・ 電子書店、図書館を通じ、広く読者に対して電子出版物を提供する
- ・ 出版社の電子出版事業拡充に資するインフラを構築する